

# 展示の本の選び方

今回の展示は何から読めばいいかわからない、という方はこちらをご覧ください。

展示されている本を簡単に紹介します。

順番どおりでも、興味を持った本からでも、読み方は自由、特集展示「ゲームで遊ぼう」を楽しむきっかけになれば、幸いです。

## 1. どんなゲームがあるのだろう？・・・ゲームの紹介カタログ

今回の展示で紹介するのはゲームといっても、電源を使わない「アナログゲーム」の本が中心です。デジタルゲームに負けず劣らず、沢山の種類のゲームがあります。

### ★おすすめ本

#### 『安田均のゲーム紀行 1950-2020』 安田 均／著

作者の人生を通して、日本のアナログゲームとゲームデザイナー・作家集団グループ SNE の歴史が語られる本です。当時どのゲームがどのような衝撃を持って伝えられたか、作られたか、そして日本のアナログゲーム産業界におけるグループ SNE の活躍がわかります。

後半は作者のおすすめのゲームが年代を問わず紹介されているので、面白いと思えるゲームを、きっと見つけることができます。

#### 『ボードゲーム・ストリート 2018』 安田 均／著, グループ SNE／著

2017年に発売されたボードゲームのカタログです。ゲームのリプレイも載っており、ゲームの流れなどがわかるので、当該ゲームや似た内容のゲームを理解する助けになります。

本館は2016年に出たゲームを紹介する「ボードゲーム・ストリート 2017」も所蔵しています。

## 2. 図書館にある本で実際に遊んでみよう・・・TRPG ルールブック

ボードゲームなどには専用の道具が必要ですが、実は図書館にある本と紙やエンピツ、サイコロだけでできる楽しいゲームもあります。それがテーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム、通称 TRPGです。人間同士の想像力で楽しむゲームですので、オープンワールドのデジタルゲームと比べても自由度が高く、様々な点で融通がきき、柔軟に遊べるゲームとなっています。

でも、一番大切なのはみんなで楽しむこと。一緒に遊んでいる人を困らせないよう、無茶なプレイや要求をやり過ぎないようにしましょう。

### ★おすすめ本

#### 『ソード・ワールド 2.5 ルールブック 1』 グループ SNE／著, 北沢 慶／著

人気の国産 TRPG「ソード・ワールド」シリーズの最新版です。このルールブック1冊とサイコロが2つに筆記用具があれば、友達や家族と遊べます。慣れてきたらルールブック2や3などを追加することで、よりゲームの幅を広げることができます。

#### 『ゴブリンスレイヤーTRPG』 蝸牛 くも／原作, 川人 忠明／著, グループ SNE／著

人気ライトノベル『ゴブリンスレイヤー』の TRPG です。TRPG にはこうした特定の作品を題材にしたものも多数あり、あの作品の世界に入れたら…という願望を叶えてくれるものとなっています。また、世界観をより深く知る設定資料集としても使えますので作品のファンならば1度は読んでおきたい1冊です。

なお、県立図書館は原作の『ゴブリンスレイヤー』を所蔵しておりません。ご希望の際は相互貸借サービスによる他の図書館からの取寄せにて貸出します。

#### 『新クトゥルフ神話 TRPG ルールブック』 サンディ・ピーターセン／ほか著

創作神話である「クトゥルフ(クトゥルー)神話」を題材にした TRPG です。「SAN 値」という言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、その元ネタがこちらになります。

4面や10面などのサイコロも必要ですが、お持ちでなければウェブアプリで代用できます。「サイコロを振る」で検索すると使えます。

ゲームを通してクトゥルフ神話に興味を持ったら、県立図書館で検索してみましょう。「クトゥルフ」より「クトゥルー」で検索する方がたくさんヒットします。

※図書館の本ですので、ルールブックには直接書き込まないでください。

キャラクターシートなどは複写したものをご利用ください。

### 3. ゲームの遊び方がよく分からなかった時に・・・リプレイ、小説など

TRPGに興味はあるけどなんだか難しそうと感じている方も多いかと思います。そんな時に役立つのが「リプレイ」です。テレビゲームの実況プレイ動画のようなもので、これを読むだけでゲームの流れや楽しさがわかります。読み物としても面白いので、実際に遊んでみる前にぜひ読んでみてください。遊んだ後に読むとプレイの意図がわかるようになり、違った視点で楽しめるようになります。

また、世界観が分かりにくいという方は、小説化されている作品もございますので、そちらを読んでみるのはいかがでしょうか。

#### ★おすすめ本

##### 『剣と荒野と放浪者』 ベーテ・有理・黒崎／著，グループSNE／著

2で紹介した「ソード・ワールド 2.5」のリプレイです。初期作成のリプレイですので初心者の方の参考になります。作品の舞台が気に入った方は、データもついているのですぐ同じ舞台で遊ぶことができます。

##### 『ドラゴンランス』 マーガレット・ワイズ，トレイシー・ヒックマン／作

世界最初のTRPG「ダンジョンズ・アンド・ドラゴンズ(D&D)」を題材にした小説です。名前だけなら知っている、という方も多いのではないのでしょうか。

古い海外ファンタジーという分厚くて難しいイメージがありますが、角川つばさ文庫から読みやすい本が出ていますのでまずこちらを読んでみて、楽しかったら他のシリーズも読んでみてください。

##### 『ダークエルフの口づけ』 川人 忠明／著

TRPG「ソード・ワールド」を題材にした小説です。「ソード・ワールド」の小説は冒険をテーマにした作品が多いのですが、今作は陰謀をテーマにしているのが特徴です。

巻末に実際のゲームに対応しているキャラクターのデータが載っているので、作中の人物がどのくらいの強さなのかがよくわかります。

初代ソード・ワールドは2.0以降のシリーズとの関わりは薄いですが、「ロードス島戦記」や「クリスタニア」といった和製ファンタジーの名作と世界観が共通しています。

※ゲームに関する資料は、県立図書館には所蔵がないものも数多くあります。所蔵する他の図書館からの取寄せもできます。気になるゲームのリプレイや小説を見つけたら相互貸借サービスを利用してみませんか。お申込は、本館1階第一閲覧室カウンターのほか、[ホームページのレファレンスフォーム](#)、お電話でも受け付けています。

#### 4. ゲームってどうやってできているの？

ゲームを作ってみたいな。・・・作り方ガイドブックなど

ゲームで遊んでみた方の中には、自分もこんなゲームを作ってみたいと思う方もおられるのではないのでしょうか。

アナログゲームはデジタルゲームと違ってプログラムを学ぶ必要がなく、アイデアと紙と筆記用具があれば誰でもゲームを作ることができます。とはいえ、実際に作るとなると参考資料が欲しいですね。そんな方にお勧めの本をご紹介します。

##### ★おすすめ本

###### 『カードゲームのひみつ』 梅屋敷 ミタ／まんが

トレーディングカードゲーム(TCG)がどのように作られているかを描いた本です。併せて『煽動者 徹底プロモーション仕掛人の哲学』(木谷 高明／著)も読むとカードゲームの作り方と売り方の両方を知ることができます。

###### 『シナリオのためのファンタジー事典』 山北 篤／著

ゲームと相性のいいファンタジーのネタを扱った本です。イラストも多くて分かりやすいので作品を作る上での資料として便利です。「(ゲーム)シナリオのための」はシリーズが他にもあり、県立図書館にも何冊か所蔵があります。自分が作りたい作品の世界観に合わせて、他のシリーズも手に取ってみてください。

#### 5. ゲームのプロってどんな人？・・・eスポーツ選手の自伝など

ゲームをしている人の中にはプロとしてお金を稼ぐ人たちもいます。

藤井聡太さんの活躍で話題になっている将棋や、最近知名度が上がっているeスポーツ、大会で勝てば賞金が出るトレーディングカードゲームなど、様々なゲームにプロがいます。あまり知られていない職種ですがこの機会に知ってみてはいかがでしょうか。

##### ★おすすめ本

###### 『世界一のプロゲーマーがやっている努力2.0』 ときど／著

ゲームのプロと聞くと遊んでいるかのようなイメージですが、他の職業同様、試合に勝てない時や今までのやり方が通用しなくなった時など、様々な困難があります。それらを乗り越えるため、どんな意識改革や努力をしてきたかが語られています。

ゲームだけでなく、うまくいかない状況のとき参考になる一冊です。

※展示資料の詳細についてはこちらから ⇒

